

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	「住み慣れた地域で、安心して暮らせるように」とする理念を作り、玄関に掲示している。	「住み慣れた地域で、安心して暮らせるように」という理念を玄関に掲示するとともに、「笑顔」を介護目標として、利用者が笑顔で楽しく過ごしてもらうように支援している。カンファレンス等の中で、理念がケアに反映されているか振り返り、話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	町内会に加入しており、地区の介護予防事業に毎月2回参加したり、ゴミ拾い等にも率先して協力している。近所の方々から、野菜や花などの差し入れも多くある。	町内会に加入している。地区の介護予防事業「すこやか浜崎」に月2回、利用者が参加して地域との交流をはかっている。ゴミ拾い等にも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内の見学等にも随時対応し、認知症に対する説明や対応の仕方をお話している。また、電話や面会による相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	定期的開催し実際に行事に参加して頂き、入居者と職員、地域の方々との関わりを肌で感じ理解していただくと共に、その都度意見を頂いている。	2か月に1回、定期的開催し、事業所の取り組み内容等を報告し、委員から意見を出してもらい運営に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場の担当職員が運営推進委員として参加している。	運営推進会議の委員として役場の職員に参加してもらい、事業所の実情やケアサービスの取り組み等を理解してもらい協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が研修を受けており正しく理解されている。また、身体拘束をしないケアは常に心がけている。	身体拘束に関して、法人内での研修、外部研修への参加等を通じて正しく理解し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にも参加しており、職員同士のコミュニケーションを密にとり、ストレスのためない職場作りを心がけると共に、良くないケアの段階でお互い注意し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用する方の入所は無いが、半数以上の職員は理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時だけでなく疑問がある場合には、いつでも十分な説明を行い納得してもらえよう、対応している。また、改正の際も口頭と文章で説明し、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりや会話の中から、あるいは面会に来られた際に家族との会話の中から見つけたり、利用者、家族が苦情を言い易い関係作りに努めている。	利用者との日々の関わり、家族の行事参加、面会等の機会を通じて、利用者、家族等の意見、要望等を把握し、出された意見等は運営に活かすように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	代表者(理事長)が毎週各施設に出向き、行事に参加したり職員と利用者とのコミュニケーションに努めている。また、その中で代表者自ら法人運営に参画し、職員の働く意欲向上や質の確保を図っている。	法人理事長は積極的に事業所を訪問し、職員等とコミュニケーションをはかるように努めている。毎月の職員会議等で職員の意見、要望を聞き、運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年1回行い、自己評価、上司評価を参考に給与などに反映させている。また、年度末に自己申告書を職員に申告してもらい、個々人の努力ややりがいなどを上司と話し合い、向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に事業所内研修、関連法人との研修会を開催している。外部研修にも積極的に参加させ、知識技術向上に繋げる機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人を含めたグループホームの管理者会議を開催場所を変えながら毎月開催し、管理者同士の情報交換をしている。また、2ヶ月に1回研修会を開催し職員同士が意見交換できる機会を作っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			k		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の実調や関係者からの情報だけでなく、本人の話をじっくり聴くことにより、少しでも不安をなくせる信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族の不安や困っている事を聞きだし、家族としての思いを重く受け止め、どのような方向で援助するか話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基に、本人に必要な支援を見極めている。必要に応じて他のサービスの検討もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から、野菜の作り方や調理の仕方等を教えてもらったり、毎日の家事全般において一緒に行うことが多い。お互いに得意とする所で協力しながら生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会、外出外泊の機会を出来るだけ多く持って頂けるよう支援している。特別な日には家族も参加して一緒に祝っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院やスーパーに出掛けている。ドライブには自宅の近くを通るコースを計画し、喜ばれている。地元の慰問を受け入れている。	生活歴や日々の関わりの中で把握した馴染みの場所(美容院、スーパー等)に出かけたり、ドライブのときに自宅付近を通るようにするなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士がそれぞれに関係を築いているが、常に見守りし職員が間に入ることで孤立する事のないよう支援している。利用者同士で気遣う姿も多く見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要があれば、相談に応じたり出来ることは支援したいと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	常に本人の希望や意向を聞き出せる声がけをし、納得したうえでの支援に努めている。	日々の関わりの中で本人の希望や意向を把握するように努め、介護記録等に記録して共有化している。「頭が痛い」と言ったときは嫌いという意思表示なのだとか言葉や表情などからも推し量ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に聞き取りはしているが、日常の会話の中から見つかることも多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やチェック表などで状態を把握している。日々、注意して観察を行い小さな変化や出来ることの発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議でアセスメントを行い、家族の面会時に状態報告と意向の確認をし、3か月毎の介護計画の見直しに反映させている。また、変化により随時見直しを行っている。	日々の関わりの中で利用者の意見、要望を把握し、家族の要望、意見を聞くとともに、設定した期間でのモニタリングを行い、職員会議でのカンファレンス等で職員の意見を出してもらい現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やチェック表、申し送りノートなどで情報を共有している。職員会議で行うアセスメントで再確認後、介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	手作りのお弁当を持って花見やドライブに出掛けた。夏には流しそうめん。秋はきのこ汁を食べながらグランドゴルフをして体を動かしたりと、季節に合わせた行事を開催している。また、散髪や買い物にも本人の要望が出た時点で随時対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々へ認知症の理解を働きかけ協力を得られている。地域の事業や、行事には積極的に参加しており地域ボランティアの慰問受け入れをした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携をとりながら受診などが適切に行われた。また、医療機関との関係を密にすることにより不必要な薬の減量に繋がられた。	本人、家族の希望するかかりつけ医としている。家族同行の受診に当たっては普段の様子や変化を伝えるようにしている。職員同行の場合は、受診結果を家族に伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員内に看護師は居ないが、状態の変化や異常があれば速やかに協力病院に相談し指示を仰いだり、受診をしている。常に異常の発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療との連携は出来ており情報交換や相談を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	条件がそろえば看取りまで取り組む方向ではあるが、現在は出来ない。重度化に対しては出来るところまで自分たちでというおもいで、知識・技術の習得に取り組んでいる。状態の変化により、家族とも話し合っている。	重度化した場合は事業所での対応に限界があるので、医療機関での対応とすること等について家族と話し合っている。重度化した場合でも出来るだけ事業所で過ごしてもらえようように介護の知識・技術の習得・向上に取り組んでいる。	条件がそろえば看取りまで取り組む方向であるので、医療機関との連携の確保などの課題を含めて事業所としての方針を定め、明文化することを検討してほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命講習を受けている。事故発生時のマニュアルも目の付くところに掲示してある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施している。地域の協力も得られるよう、話し合いを行っている。	2、3か月ごとに避難訓練を実施している。区長宅を緊急連絡先とするなど地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を得て、夜間想定避難訓練を実施するようにしてほしい。地域との協力体制についても区長宅から次の連絡先を確保し、協力をえるなど更に充実してほしい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライドを損ねないよう配慮した言葉かけを心がけている。	一人ひとりの誇りやプライドを損ねないような言葉かけを行うとともに、居室に入る場合の声かけ、入浴、排泄介助時の羞恥心への配慮などプライバシーの確保に心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添いケアにより、言葉以外の訴え等にも注意して観察している。選択肢を多く持ち少しでも本人の希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	作業やレクリエーションは興味を持てたら参加して頂いている。外出や散歩の希望もプランに入れる程頻繁に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の買い物、理美容院への外出支援を行っている。必要に応じて訪問美容も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	自分たちで作った野菜を食材とした献立を立てたり、一緒に調理をしたりと、職員も支援をしながらの食事を楽しんでいる。	利用者と一緒に行った野菜を食材としたり、買い物、皮むき、カットなど調理の下ごしらえ、後片付けなどを職員と一緒にいき、職員と利用者が対面式のテーブルを挟んで会話しながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分のチェックを行い注意している。個々に合わせた食事形態や、嗜好を考慮した盛り付けにしている。パン等常備し不食時の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合った支援をしている。歯科受診の支援も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タイミングを見て、トイレの声かけを行い出来るだけトイレで排泄できるように支援している。日中は布パンツにしたり時間や状況によりパットの種類を換える等の工夫をしている。	24時間排泄チェックを行い排泄パターンを把握し、タイミングを見て声かけを行い出来るだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し、食事・水分・運動等で予防と対策をとっている。チェック表により速やかな対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほとんど全員が毎日入浴している。拒否のある方には、週3回程度は入って頂けるよう働き掛けている。夕食後の入浴も行っている。	家庭での入浴習慣を可能な限り継続できるように遅番体制を取り、夕食後の入浴が可能である。ほとんど全員が毎日入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長年の生活習慣を変えることなく、個々に合わせたペースで自由に休んで頂けるように支援している。また、休息の場所等もそれぞれで、状況に合わせた見守りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況の変化があった場合や薬の変更時は特に注意し観察し、記録に残している。医療との連携を取りながら必要でない薬はなるべく減らすような支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や掃除、畑仕事など個々に合わせた役割を持って頂き、継続されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は天候によるが毎日午前と午後2回行っている。スーパーにも毎日出掛け食材を選んで頂いている。季節ごとの外出やコンサート等にも出掛けている。	天候を見ながら毎日午前、午後の2回散歩している。季節ごとの花見、しょうぶ見物、紅葉狩り、コンサートへの参加など外出の機会を作っている。外出困難者にも施設周辺を車椅子で巡るなど戸外に出るよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族より現金を預かり、買い物への付き添いや支払いの支援を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は希望があれば使用できる。家族に働き掛け電話のやり取りの協力を得ている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間のガラス窓の多さを活かし季節感や天候の変化を感じ取って頂くと共に、広い縁側で見慣れた風景を眺めながら開放感と安心かを得ることが出来る。また、余計な飾りつけや展示はせず、家庭的な設えにしている。</p>	<p>対面式キッチンを中心に、畳の間、応接セットが置かれたリビングなどがレイアウトされ、開放的な窓ガラスなど明るく広い空間となっている。余計な飾りつけや作品展示はせず、BGMも流さず家庭的な雰囲気を大切にしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>カウンター席と和室を有しておりそれぞれに、思い思いの場所で寛いでいる。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。</p>	<p>家族やお気に入りの写真を貼ったりと、狭いながらもその人にとっての居心地の良い空間を作り上げている。</p>	<p>利用者が部屋に閉じこもりがちにならないように、なるべく共有空間で過ごしてもらうようにというコンセプトから部屋は狭く、あまり物を置かないように設計されているため、さっぱりしているが、家族との写真を貼ったりして自分の部屋らしく感じられように配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室入り口には写真を貼り、自分の部屋がわかる様にしてある。建物はバリアフリーになっており、てすりやスロープが設置してある。</p>		